

5 令和5年度 県立三田西陵高等学校 学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

1 スクール・ミッション、スクール・ポリシー

【スクール・ミッション】 校訓「自主 創造 飛翔」の理念のもと、キャリア教育を通して育てる「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」を備え、夢の実現力に富み、持続可能な社会の創り手として「根っこ」がしっかりとした、たくましく豊かな人生を切り拓くことのできる太く逞しい「幹」を持つ、人材を育成する また、子どもみらい類型を有する本校は、特色ある学校設定科目の設定や関係教育機関・地域と連携した校内・校外の実習を充実させた学びにより、将来、保育士や幼稚園教諭など「子どもの未来」に関わる職業に貢献できる人材を育成するとともに、子どもみらい類型における学びを学校全体へ拡げていく。 「夢の実現力」のために育成していく力 「自主」 自分の考えをしっかりと持ち、他者の意見を尊重しながらも自らが下した決定を行動に移していく力 「創造」 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決法でもって探求していく力 「飛翔」 自分の目指す方向を見失わず、仲間と一緒に知恵を出し合い課題を解決していく力 【スクール・ポリシー（三つの方針）】 (1) 育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー） ① 自分の考えをしっかりと持ち、他者の意見を尊重しながらも自らが下した決定を行動に移すことができる生徒を育成する。 ② 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決法でもって探究していくことができる生徒を育成する。 ③ 自分の目指す方向を見失わず、仲間と一緒に知恵を出し合い課題を解決していくことができる生徒を育成する。 ④ 自身の成長のために進んで学ぼうとする、学びに向かう力のある生徒を育成する。 ⑤ 生命を尊重し、自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育てる。 (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） ① 生徒の興味・関心や進路希望に対応した、特色ある学校設定科目や専門科目を設定する。 ② 学び方の基礎・基本の定着を図るため、少人数授業の充実を図る。 ③ 実験・実習を充実させる等、生徒が主役の実践的で体験的な学びを展開する。 ④ ICTを効果的に活用した、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を図る。 ⑤ 大学や外部機関と連携し、高度な知識や技術を活用した探究的な学びに取り組む。 (3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） ①学校の全ての教育活動に主体的に取り組む、向上心を持った生徒を募集する。	2 学校経営の重点 (1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。 ア 生徒が夢や希望を持ち、将来の目標を適正に定められるよう、体系的・組織的なキャリア教育及び進路指導のさらなる充実を図る。 イ 生徒の基本的生活習慣、基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を図る。 ウ 将来の進路目標を実現し、社会で活躍し貢献できる人づくりを進めるため、生きて働く知識・技能の確実な習得に加え、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を育成し、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力を育成する。 (2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。 ア 体験活動を通して自ら学び、考え、体得する教育に力を入れ、時代を越えて変わらない倫理観や公共心の育成など心の教育の充実を図るとともに豊かな人間性等を涵養する。 イ 校内の緑化や花いっぱい運動、美化に励む伝統を継承し、本校の恵まれた学習環境の中で、生徒の豊かな情操を養う。 ウ 生命の尊さや、他を思いやる心を育て、防災・安全教育を充実させる。 (3) 保護者・地域等との連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。 ア 生徒の地域社会の活動への参加及び地域住民の本校教育活動への参加等、開かれた学校づくりを積極的に進め、家庭・地域社会と互いに連携しながら、いきいきとした魅力ある教育活動を展開する。 イ 自主自律の精神に富む人づくりに努め、明朗・闊達な精神と文化を尊ぶ校風の継承と発展を図るとともに、時代の進展や社会環境の変化に対応した学校づくりに取り組む。 (4) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。 ア 本校のスクール・ミッションの実現をめざし、各教職員が学校組織の一員として一人ひとりの専門性、個性を生かしながら、緊密に連携・協力してそれぞれの課題に取り組む。 イ 生徒の主体的な学びを支援する伴奏者として、生徒一人一人の学びを最大限に引き出し、個別最適な学びと協働的な学びが実現できる質の高い教職員集団であるために、学校単位をはじめ、個々の教員においても主体的・自律的な研修の取組を推進するとともに、職員間で共有化を図る。
---	--

3 総合的な自己評価及び次年度に向けた改善点

(1) 授業について、1～2年生では6割以上の生徒がICT機器を効果的に活用した授業を受けることができていると回答している。来年度は全学年がBYOD導入となり、一層効果的な活用を図りながら生徒の学びの意欲を引き出す授業を推進する。また「学校情報化先進校」の認定を目指し取組みを進める。8割弱の生徒が授業内容に興味をわき、集中して授業を受けることができている、8割強の生徒が大方の科目において授業内容が理解できていると回答している。全ての生徒が夢の実現をするために必要な「確かな学力」の育成をめざし、さらに授業改善に取り組む。 (2) 「総合的な探究の時間」を軸にして、進路講演会やホームルーム等でキャリア教育に取り組んだ結果、約8割の生徒が自分の進路を考える上で役立っていると回答しているが、4～5割近くの生徒が進路目標達成に向けてスタディサプリや模試等のツールを十分に活用できていないと回答していることが課題である。生徒が主体的に3年間を見通したキャリア形成を図れるよう、組織的・体系的なキャリア教育を進めていくことが必要である。 (3) 子どもみらい類型の取組について、今年度より新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、「県立高校魅力アップ推進事業」「高校生ふるさと貢献・活性化事業」等で計画していた内容を概ね予定どおり実施できた。連携幼稚園・保育園、地域活動協議会、自治会等の支援・協力を得ながら、教育現場体験、芋掘り交流会やブックカフェ等を通じた園児や地域の方々との交流、各種ボランティア活動への参加により、生徒の主体的な学びを深めることができた。また、1年生、部活動部員、環境委員、花緑委員が中心となり、花いっぱい運動や地域ボランティア清掃に参加し、地域や社会への意識を涵養するきっかけとなった。 (4) 高大連携について、昨年度プロジェクトチームを立ち上げ、生徒の学びを深め、専門的な見地から探究学習を行えるよう準備を進めてきた。今年度2年生の「総合的な探究の時間」において、連携協定を締結する5大学からのべ14人の教員を派遣いただき分野別に11講座を開講した。各講座では本校教員がファシリテーターとなり、大学教員の専門的な指導・助言を得ながら探究学習を実施した。来年度、本年度の課題を踏まえてより深化させていく。

4 学校関係者評価総括

(1)「県立高校魅力アップ推進事業」「高校生ふるさと貢献・活性化事業」等の県事業を活用した取組や子どもみらい類型の取組について、生徒の主体的な学びを深めており、学校評価アンケート結果からも生徒が学校生活に満足している様子がよく分かる、本校職員の取組みが実ってきていると評価いただいた。同時に、あまり満足していない生徒への働きかけはどうか、教育相談体制の更なる充実ができないのかという意見もいただいた。 (2)今年度の本校の取組全般を高く評価していただいたが、地域との更なる連携等、次年度に向けて様々な視点より意見もいただいた。これらを今後の学校運営に活かしていく。
--

5 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成	①生徒による、自らが学び、育つ学校地域の健全で健やかな環境整備に向けて取り組む。【総務部】	①花緑委員会、各部、学年、部活動組織と連携できたか。県市と連携できたか。その他校内外の感想はどうか。【総務部】	A	学校内、校外について花緑委員会が中心となり、春秋の二度花壇等に花を植えた。またプランターに花を植え、地域のコミュニティ・センターに届け、学校や地域の住環境の向上に努めた。【総務部】
	②新カリキュラムでの教育課程の改善 ・観点別評価の教員の共通理解 ・より良い評価の方法の検討 【教務・特色推進部】	②新カリキュラムでの教育課程の改善点・見直し（年４回） 観点別評価の実践例の提示（各教科１回以上） 【教務・特色推進部】	A	教育課程委員会を通して教育課程の見直しを行った。職員会議後に各教科から観点別評価の実例を提示した研修会を実施した。 【教務・特色推進部】
	③学校設定教科「教育」・学校設定科目「教育入門」「教育体験」、総合的な探究の時間「教職の探究」を設置し、外部講師による教育講話、創作活動、教育現場体験(実習)など授業内容の充実を図る。 【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	③子どもに関わる進路（教育系など）への希望者 60％以上を目指す。 【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	B	１年生の「総合的な探究の時間」は子どもみらい類型において「教職の探究」として実施した。また教育現場体験（インターンシップ）では13名の生徒が夏季休業中に30時間以上の実習を経験した。カリキュラムの変更に伴い、評価も含めた計画を必要とする。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】
	④生徒指導の観点から、教科ではなく、社会を生き抜く確かな力を身に付けさせる。【生徒指導部】	④生徒アンケートにおける「学校生活は充実している」85％以上。【生徒指導部】	A	各種行事や日常生活に関する生徒アンケートの結果、概ね目標の数値を達成している。講演会やボランティア活動も積極的に行い、充実した学校生活を送っている。【生徒指導部】
	⑤確かな学力を習得するためにも、心身が健全であることが肝要であることを自覚させ、充実した学校生活を過ごせるよう支援していく。 【生徒指導部（保健担当）】	⑤生徒アンケートにおいて「学校生活は充実している」85％以上。【生徒指導部（保健担当）】	A	生徒アンケートにおいて 90.7％の生徒が「学校生活が楽しい」と回答するなど、多数の生徒が元気に学校生活を送ることができている。【生徒指導部（保健担当）】
	⑥基本的な知識・技能・学力を身に付ける。補習・資格取得・外部と連携した事業・校内での諸活動を充実させ、自分の意志で参加し、自分が達成したという自信を持たせる。【進路指導部】	⑥諸活動を精選し、内容は生徒にとって充実したものであったか。 生徒自身が自分から加わり達成したという満足感を持ったか。 達成できていない生徒に対して、どのような指導があるのか考えられたか。【進路指導部】	B	各学年長期休業中の補習が実施できた。 3年生においては、英語において GTEC・英検含め多くの生徒が資格を習得した。【進路指導部】
	⑦国・数・英を中心に小テストや週末課題を実施し、基礎・基本の徹底を図る。 模試の結果等を踏まえて、自らの課題を確認するよう促す。 スタサブを利用した家庭学習を奨励し、自ら課題を克服する習慣をつける。【１学年】	⑦小テストの合格点を設定し、合格率 80％以上を目指す。 各教科で振り返りや課題をし、偏差値の平均が＋３～５を目標とする。 スタサブの動画視聴および確認問題への取組状況を確認し、各教科の考査平均＋５点を目標とする。【１学年】	B	小テストでは不合格者に対して再テストも実施したが、不合格者に対する意識の向上に課題が見られた。 スタサブによる課題配信は定期的に行ったが、現時点で結果に結びつくまでには至っておらず、今後も継続的に実施していく必要がある。【１学年】
	⑧授業に対して主体的に取り組めるよう、予習→授業→復習のサイクルを意識して定着させる。 毎週の小テスト（英・国・漢検（総合））、週末課題に誠実に取り組む。	⑧授業アンケートでの「積極的な参加」80％以上を目指す。 小テストでの合格率の年度当初からの向上を目指す 補習後のアンケートでの満足度 80％以上を目指す。 【２学年】	B	補習の参加人数が予想より少なかった。進路を見据えて補習に積極的に参加する姿勢作りに取組む必要がある。小テストの合格率は実施回によってバラつきがあり、今後も継続した指導が必要である。【２学年】

	長期休暇中の補習など、実施について生徒への周知徹底を図り、積極的に活用させる。 【2 学年】 ⑨授業に対しての主体的な取り組みを促す。 毎週の小テスト（英・国）、週末課題に誠実に取り組む。 補習を積極的に活用し、進路希望の実現につなげる。【3 学年】	⑨授業アンケートでの「積極的な参加」80%以上を目指す。 小テストでの合格率の向上を目指す。 補習後のアンケートでの満足度 80%以上を目指す。 【3 学年】	A	1 月の学年末考查最終日に実施した卒業前アンケートにおいて、「授業にきちんと取り組んだ」生徒が 84.4%、「英語や国語の小テストに力を入れて取り組んだ」生徒が 64.8%であった。 3 学年ということで、夏季希望者補習に対しては、前期 20 講座にのべ 354 人、後期 13 講座にのべ 254 人の参加者があり、熱心に勉学に励んだ。【3 学年】
--	--	---	-----------------	--

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育成	①他者と協働しながら行動し、また自己の安全や周囲の安心感の醸成に努める。防災および人権。 【総務部】	①各部、学年、部活動組織と連携できたか。 県市と連携できたか。その他校内外の感想はどうか。 【総務部】	A	消防署と連携しつつ防災訓練に取り組み、生徒の防災意識の向上を図るとともに、社会参画の意識も高めた。また三田市の防災担当部署と連携しつつ、地域の災害への関心を高めた。
	②教育現場体験などを通して対人関係（人間力）を構築する環境を設定する。 【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	②連携幼稚園・保育園の園長や教諭、保育士からの講評・感想を評価に資する。地域活動協議会からの講評・感想を評価に資する。実施回数やアンケートなどにより評価する。 【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	A	人権意識の涵養の視点で今日的な若者の問題「ヤングケアラー」について考える機会を持つことで、一人一人の課題としながらも個人が抱え込まないことを示した。多様化する社会の中で個人の抱える種々の困難性を掘り起こし、解決の方向性を提示することが今後も必要である。 【総務部】
	③各種講演会を通じて、自身の生活を見つめ直す機会を設ける。また、これからの社会を生き抜く力を身に付ける。 【生徒指導部】	③スケアード・ストレイト SNS 講演会 薬物乱用防止講演会 【生徒指導部】	A	受入先施設からは好評を得た。次年度以降も継続する。 【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】
	④引き続き、必要に応じたコロナ対策を行うとともに、日頃の学校生活においても、熱中症対策や体調管理に留意するよう啓発活動をおこなっていく。 【生徒指導部（保健担当）】	④保健委員による啓発ポスターの作成ができたか。 生徒が個人および集団の命を守り、健康意識の向上を図れたか。 【生徒指導部（保健担当）】	A	各種講演会を実施し、概ねそれぞれの重要性について、生徒の理解を深めることができた。 【生徒指導部】
	⑤進路実現は各個人の「生き方の問題」であるという視点で、自分の将来像を描かせ可能性をさぐる。自己理解を深めるため、「様々な経験」「様々な進路情報」「様々な可能性」を図れる指導を行う。 【進路指導部】	⑤生徒との対話がよくできているか。 外部の方々による講演など、学校関係にとらわれない広い分野からの知識・関心が得られるように取り組めたか。 【進路指導部】	A	保健委員によるポスターの作成など、啓発活動を行った。文化祭前後にコロナが流行するなどしたため、引き続き感染症対策は行っていく必要がある。 【生徒指導部（保健担当）】
	⑥総合的な探究の時間や人権 HR 等において、自己や他者を大切にす態度を育成する。 【1 学年】	⑥アンケート等を活用し、生徒の意識の変化を確認する。 【1 学年】	A	各学年ともに定期的に面談を実施し、生徒との関係は密である。必要に応じ三者面談も実施されていた。 【進路指導部】
	⑦先住民族や自然環境など、北海道独自の文化について学び、多くの体験を通して生徒の目を多方面に向けさせる機会とする。 【2 学年】	⑦人権 HR 実施後のアンケートで、生徒の学びを確認する。 【2 学年】	A	総合的な探究の時間では他者の視点に立って考えるとともに、グループワークを通じて他者を大切にする態度が育成された。人権HRではSNSを通じた他者との関わりについて考える機会を設けた。 【1 学年】
	⑧人権 HR などを通して、他者に対して思いやりを持って接する態度を育成する。 学校行事に全力で取り組むことで、学校生活を充実させ、自己肯定感を高める。 【3 学年】	⑧人権 HR 実施後のアンケートや感想文で、生徒の学びを確認する。 事後アンケートにおいて取り組む姿勢や行事を通した学びを確認する。 【3 学年】	A	修学旅行実施前にアイヌ民族の文化と歴史について、人権HRで学ぶ機会を持った。修学旅行では「北海道開拓の村」や「ウポポイ」を見学した。 【2 学年】
				1 学期には「就職差別」、2 学期には「ヤングケアラー問題」に関する人権HRを実施した。卒業前アンケートにおいても86.1%の生徒が「人権HRにきちんと取り組んだ」と回答しており、人権に関する学びを深めることができた。 西陵際は、文化の部・体育の部ともに3 年生が総合優勝を果たし、意欲的に取り組むことができた。 【3 学年】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(3) 保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりの推進	①他者の視点に立ちながらよりよい社会の在り方について考えようとする。社会参加の姿勢を養う。【総務部】	①花緑委員会、各部、学年、部活動組織と連携できたか。県市と連携できたか。その他校内外の感想はどうか。【総務部】	A	花緑委員会の取組は地域に潤いを与える視点からも相応の評価を得ている。生徒自身が花を届ける行為によって本校生の姿が地域に肯定的に受け止められた。学年と連携しつつ、学校周辺の清掃活動に取り組み、社会の一員として、住環境の向上を考え実践した。好評であり、地域からの期待感が伝わった。【総務部】
	②教育現場体験（実習）や就業体験、交流会を充実させ、連携幼稚園・保育園との関わりを深める。地域活動協議会との連携を図り、地域連携講座を開講し自治会創作展への出展や学童保育などへの参加機会を増やす。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	②連携幼稚園・保育園の園長や教諭、保育士からの講評・感想を評価に資する。地域活動協議会からの講評・感想を評価に資する。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	A	連携幼稚園・保育園との玉ねぎ収穫、芋掘り交流を実施した。また、地域自治会のサークルとの交流を通じて創作展への出品を行った。特に校内農園の収穫物の一部を、三田市子ども・未来部子ども未来室すくすく子育て課への寄付を行った。次年度以降も継続する。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】
	③生徒会活動を通じて、地域の方々との交流を深め、各種学校行事に保護者・自治会などの参画を促す。【生徒指導部】	③ゆりのき台自治会における生徒会役員の参画ができたか。【生徒指導部】	B	学校としての地域とのつながりを作ることができたが、生徒会として地域とのつながりをうまく活用することが不十分であった。【生徒指導部】
	④保健便りやカウンセリングルーム便りを発行し、生徒のみならず保護者とも連携を図っていく。【生徒指導部（保健担当）】	④生徒や保護者に教育相談体制を周知することができたか、学校評価アンケートなどにより評価する。【生徒指導部（保健担当）】	B	アンケートにおいて、「悩み等を相談できるキャンパスカウンセリングなどの教育相談体制を知っている」と回答したのは、生徒は 67.4%、保護者は 59.6%であった。もう少し周知できるように情報発信が必要である。【生徒指導部（保健担当）】
	⑤進路情報を詳細に提供する。地域や社会が求めている人材とは何かを考える。【進路指導部】	⑤保護者・地域に対し進路情報などの提供が効果的にできたか。地域の求める青年のあり方を把握し、指導に活用できたか。【進路指導部】	B	学年懇談会や三者面談時に進路に関する情報提供を行った。地域に対しての情報提供に課題がある。【進路指導部】
	⑥学年や学校における活動を学年通信で発信し、本校の取組についての理解を図る。日番日誌の一部をホームページで紹介し、生徒主体で本校の魅力を発信する。【1 学年】	⑥学年通信を最低でも月 1 ～ 2 回発行する。各クラスによる当番制を実施し、週 1 回は更新する。【1 学年】	B	学年通信については月 1 回のペースで発行できておらず、掲載内容を年度当初から年間で計画しておく必要を感じた。ホームページの更新についても、学校全体で掲載内容を含めた検討が必要だと感じた。【1 学年】
	⑦保護者対象修学旅行説明会等を通して、修学旅行の実施について、保護者への周知徹底を図り、理解と協力を求める。【2 学年】	⑦夏季休業中に実施する三者面談等において、保護者と情報共有を行う。【2 学年】	A	修学旅行について担当から丁寧に説明することができた。また、夏季休業中の三者面談においても情報共有できた。その結果、多くの生徒・保護者が修学旅行を理解し、修学旅行の成功につながった。【2 学年】
	⑧定期的に学年通信を発行することで、生徒・保護者・学校相互の理解を図る。進路実現に向けて二者面談・三者面談を計画的に実施する。【3 学年】	⑧面談を通して、生徒や保護者との情報共有を図り、生徒の自立および自律につなげる。【3 学年】	A	3 学年になってから学年通信を 6 回発行し、生徒・保護者への情報の周知を図ることができた。夏の三者面談に加え、私大出願に向け12月、また国公立大学出願に向けて1月にも三者面談を実施し、生徒の納得のいく進路選択ができるよう配慮することができた。【3 学年】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(4) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実	①防災避難計画の立案、安全点検。実施委員会組織、学年、部との連携に努める。課題確認。【総務部】	①各部、学年、部活動組織と連携できたか。県市と連携できたか。その他校内外の感想はどうか。【総務部】	A	画一的な避難ではなく、日本また地域の特性を考慮しつつ社会生活を送ることの重要性、自助、共助の精神を考える機会とした。繰り返し行うこと、様々なバリエーションの実践が必要である。【総務部】
	②ICT 機器の活用研修会 ・具体的な事例の提示 ・ICT 機器の有効活用 教科横断的な授業参観と研修会 ・生徒のキャリア形成に応じた授業についての検討 【教務・特色推進部】	②事例や有効活用の提示（年４回） 他教科への授業参観（１回以上） 【教務・特色推進部】	B A	概ね達成できた。次年度以降、教科に関わらない活用方法を提示していく必要がある。 秋の公開授業週間を利用し、教科を横断した授業見学を実施した。次年度以降、人数の変更や実施形式の再考が必要である。【教務・特色推進部】
	③「教育入門」の指導方針と年間計画、「総合的な探究の時間（教職の探究）」の取組方針を、年度当初に教職員へ配布し説明を行う。教育講話や創作活動の実施について、適宜職員向けに案内する。 【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	③班別協議や課題研究発表会の見学、参加を評価に資する。 【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	A	年度当初に取組みについての冊子を教職員に配布できた。外部講師や交流会の案内等、外部との連携を密にできた。 【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】
	④変化の激しい時代にあって、多様な考え方が社会の存在する中で、多様な視点を身に付けるための各種研修・会議を充実させる。【生徒指導部】	④定期的に拡大生徒指導部会を開催し、教員に求められる生徒指導の観点からの考え方を共有する。【生徒指導部】	A	改訂された「生徒指導提要」にもとづき生徒指導に関する考え方の共有を行い、共通理解を図ることができた。 【生徒指導部】
	⑤配慮を要する生徒の共通理解を着実に行うとともに、教職員向けのカウンセリングマインド研修などを通じて、教職員の資質向上を図っていく。 【生徒指導部（保健担当）】	⑤定期的に保健安全・特別支援委員会を実施する（年８回）教職員向けのカウンセリングマインド研修により、教職員の資質を向上させる。（８月に実施） 【生徒指導部（保健担当）】	A	定期的に保健安全・特別支援委員会を実施するとともに、学期ごとに全教員で配慮を要する生徒等の共通理解を図れた。また、カウンセリングマインド研修などにより、92％の教員から共通理解が図れたと回答があった。 【生徒指導部（保健担当）】
	⑥学年が行う実態に応じた指導を重視しつつ、全体としての進路指導計画を完成させる。３年間を見通した進路指導計画を完成させる。 【進路指導部】	⑥進路指導計画が立てられ、有効に実施できているか。成果を校内で共有できたか。【進路指導部】	B	進路指導計画にもとづき、３年間を見通した進路指導が概ね実施できた。【進路指導部】
	⑦学年会議等において情報交換をおこない、学年が抱える課題とその解決方法について議論を交わす。 BYOD に関する最新の取組について教科の枠を超えた情報交換を常におこない、積極的に取り入れる。【１学年】	⑦週１回の頻度で学年会議を開き、学年の課題について素早い対応をおこなう。 学年団全員がタブレット等を用いた授業をおこなう。 【１学年】	A	週１回の学年会議を通じて、学年全体で生徒情報を共有し対応することができた。 学年団全員が授業や課題配信等でタブレットを積極的に取り入れることができた。【１学年】

	⑧西陵祭文化の部・体育の部等において、中心的な役割を担う。 部活動や委員会活動において中心的な役割を果たし、学校に活気を与える存在となるよう意識させる。【２学年】 ⑨定期的に進路検討会を実施し、個々の生徒への進路指導を、担任だけでなく学年全体及び進路指導部と協力して綿密に実施する。 毎朝、毎週の学年会を通じて、生徒の共通理解を図り、きめ細かな指導を継続して行う。 【３学年】	⑧各行事のアンケートにおいて、生徒の取組状況を確認する。【２学年】 ⑨進路検討会、学年会の実施回数などを評価に資する。また生徒に実施する卒業前アンケートにおいて、本校の進路指導について確認する。【３学年】	A A	西陵祭文化の部において、新しい試みとして、全クラスが模擬店に取組んだ。体育の部において、２年生が総合準優勝を果たし、大いに行事を盛り上げることができた。【２学年】 １学期期末考査時、２学期期末考査時、また共通テスト終了後と３回進路指導部と合同で進路検討会を実施した。３学年発足直前の４月にも学年内で検討会を実施し、学年団全員で生徒の進路に関する共通理解を深めた。 卒業前のアンケートにおいては、「学年の先生は親身になって相談に乗ってくれた」とする生徒が88.5%、「進路に向けた授業や講演会などのプログラムが充実していた」とする生徒が81.0%であった。【３学年】
--	--	--	---------------------------------	--